

親子、家族間、地域のつながりを深めよう ～スポーツクラブのイベント企画・運営を通して～

団体名 ● Kam (柳川ゼミナール) / 代表者名 ● 宮田瑞希 (人間科学部スポーツ学科 3年)

背景・目的

コロナ禍やデジタルデバイスの普及による子どもの運動不足やコミュニケーション不足が問題となっている。そこで、学校や家庭という枠を超え、地域のスポーツクラブにおける子ども同士や、親子間の交流を増やすスポーツイベントを作りたいと考えた。さらに、子どもたちの実態に合わせた運動量の確保、怪我のリスクへの対応など、スポーツ学科生の専門性を活かしたイベントの企画・運営を行い、参加者にとって有意義な活動となるよう留意したい。

活動内容

日程：7月9日(日)、9月24日(日)

12月10日(日)、2月25日(日) (予定)

場所：富山市旧総曲輪体育館

参加：こども体操教室カレッジに所属する子どもとその家族約60名、学生約10名

内容：こども体操教室カレッジと連携し、学生主体でイベントを開催した。主な活動は、準備運動(ブレイクダンス、きとくと体操、Bちゃん体操)、リレー(目隠しリレー、フラフープリレー、ラケットリレー、ボール送りリレー)、鬼ごっこ、ドッジボールなど、4～5つ程度の競技を行った。



ドッジボール



フラフープ潜り



白くまのジェンカ



ボール送り

成果・課題

イベント実施後、毎回、振り返りやアンケートを行い成果と課題を把握し改善を図ることで、参加者の満足度を高めるように心がけた。各回の変容は以下のとおりである。

【1回目】

成果：親子間のコミュニケーションが深まった

課題：他クラスの交流が深まりにくい
運動量が少ない

改善策：他クラス混合のチーム編成・チーム対抗戦
運動量を増やす内容の工夫

【2回目】

成果：他クラスとの交流が増える、運動量を確保

課題：保護者が転倒するなどリスクが大きい

改善策：安全面考慮、保護者の参加工夫

【3回目】

成果：安全面の配慮を徹底し怪我のリスクを軽減
保護者の参加制限し負担軽減

課題：保護者がおざなり

親子間の交流の満足度が減る

また、アンケートの「楽しかったか」の問いには、全体を通して「楽しい」という回答が多かったが、競技内容によっては、保護者が手加減してしまう場面も見受けられた。体操教室の代表者からは、もっと子どもと学生が関わる機会を増やす、大人も本気で取り組める活動の工夫などの要望が聞かれた。

考察・今後の展望

毎回の振り返りで得られた課題に対応し、解決を図ったことで、満足度の向上が見られ、新たなニーズを発見することができた。今後は、幅広い年代が一緒に楽しめるようなルールや方法を工夫することが必要だと思われる。例えば、生涯スポーツの考えを取り入れるなど発想の転換が必要だと考えられる。アンケートにおいても、「どのような点が楽しかったか」など、具体的に質問することで、より満足度を高めることを目指していきたい。